

事務事業名	いちご生産施設整備等支援事業				担当	産業部 農政課 農業振興係		
政策名	3	「にぎわいづくり」～まちの活力アップ!～			☐ 総重（総合計画重点事業） ☐ 戦拡（総合戦略拡充事業）	☐ 総新（総合計画新規事業） ☐ 戦新（総合戦略新規事業）		
施策名	1	農業の振興						
関連個別計画	真岡市まち・ひと・しごと創生総合戦略				事業期間	☐ 単年度のみ ☒ 毎年度実施（開始年度 平成28 年度～） ☐ 期間限定複数年度（ 年度～ 年度）		
法令根拠	いちご生産施設整備支援事業費補助金交付要綱、いちごスマート農業推進事業費補助金交付要綱							
予算科目	1.一般会計	6.農林水産業費	1	4				
予算科目								
事業概要	・真岡市いちご生産施設整備支援事業（平成28年度～） いちごの産地維持及び産地の育成強化を図るため、いちごの新規導入または生産規模拡大を支援する。 パイプハウス整備等の費用の3/10以内で補助（限度額180万円） 令和7年度から、育苗ハウスも3/10以内で補助対象とした（限度額40万円） ただし、本圃ハウスと併せて整備する場合に限る ・真岡市いちごスマート農業推進事業（令和元年度～） 生産量日本一のいちごの産地維持のため、ロボット技術やICT技術を活用したスマート農業の普及に向け、農産物の多収化・高品質化及び技術継承の迅速化に対して効果が期待されるICT機器の購入費用の一部を補助するもの。 補助対象：いちごの栽培データを収集・活用するためのICT機器等 補助率：1/2以内 気象計、土壌センサ等、比較的安価なICT機器の導入を支援し、優良生産者の栽培環境をデータとして見える化し、収量の少ない生産者や新規導入者の参考とすることにより、技術向上及び技術継承を支援する。 スマート農業の推進のため、JAはが野いちご部会を通じた事業の実施							

1. 現状把握の部 (1) 事務事業の目的と指標

① 手段（主な活動）					④活動指標（事務事業の活動量を表す指標）の推移						
6年度実績 補助金交付事務 ・いちご生産施設整備支援事業費補助金 ・いちごスマート農業推進事業費補助金 実績は活動指標のとおり 7年度計画 前年度同様に事業を推進					名称	単位	3 年度(実績)	4 年度(実績)	5 年度(実績)	6 年度(実績)	7 年度(見込)
					ア いちご生産施設補助金額	千円	5,561	4,914	4,671	7,029	9,097
					イ いちごスマート農業補助金	千円	74	1,094	1,938	1,877	2,700
					ウ						
					エ						
					オ						
					② 対象（誰、何を対象にしているのか）*人や自然資源等 いちご生産者					⑤対象指標（対象の大きさを表す指標）の推移	
					名称	単位	3 年度(実績)	4 年度(実績)	5 年度(実績)	6 年度(実績)	7 年度(見込)
					ア いちご農家数	戸	421	413	411	408	405
					イ						
					ウ						
					エ						
					オ						
					③ 意図（この事業によって、対象をどう変えるのか） ・意欲ある生産者への支援によるいちご産地の維持 ・技術向上、技術継承を通じた農業経営の安定					⑥成果指標（対象における意図された対象の程度）の推移	
					名称	単位	3 年度(実績)	4 年度(実績)	5 年度(実績)	6 年度(実績)	7 年度(見込)
					ア 支援を受けた農家数	戸	6	14	22	24	30
					イ 支援を受けた農家の割合	%	1.4	3.4	5.4	5.9	7.4
					ウ						
					エ						
					オ						
					(2) 総事業費の推移					単位	3 年度(実績)
投入量	事業費	財源内訳	国庫支出金	千円	0	0	0	0	0		
			県支出金	千円	0	0	0	0	0		
			地方債	千円	0	0	0	0	0		
			その他	千円	0	0	4,671	7,029	9,097		
			一般財源	千円	5,635	6,008	1,938	1,877	2,700		
	事業費計（A）			千円	5,635	6,008	6,609	8,906	11,797		

2. 1次評価の部 *原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価

目的妥当性評価	①政策体系との整合性 市の政策体系に結び付き、社会環境や住民ニーズ等を考慮した上で目的は妥当か？	☒ 見直し余地はない ☐ 見直し余地がある (評価理由) 当該事業により、いちごの産地維持及び産地の育成強化につながることから、市の政策に結び付く。
	②公共関与の妥当性 市が事業に関与する必要があるか？	☒ 見直し余地はない ☐ 見直し余地がある (評価理由) いちごの産地維持及び産地の育成強化を目的とした事業であり、日本一のいちご産地の維持を図る事業として、本市の魅力ある農業の振興につながることから、公的関与は妥当である。
	③対象と意図の妥当性 ・1枚目の②「対象」③「意図」は適切か？ ・対象を限定・追加する必要があるか？ ・意図を限定・追加する必要があるか？	☒ 対象・意図を見直す必要はない ☐ 対象を見直す必要がある ☐ 意図を見直す必要がある (評価理由) 意欲のある生産者への支援を通じて農業経営の安定のほか、いちご産地維持及び産地の育成強化につながることから、適切である。
有効性評価	④成果の向上余地 ・成果を向上させる余地はあるかどうか？ない場合の理由は適切か？ ・成果の現状水準とあるべき水準の差異はないか？ ・何が原因で成果向上が期待できないのか？	☐ 向上余地はない ☒ 向上余地がある (評価理由) 生産者に対するいちご生産施設整備への支援については、規模拡大を通じて、農業経営の安定のほか、いちご産地維持及び産地の育成強化につながることで、また、いちごスマート農業推進事業については、アンケート結果を踏まえ、満足度が高いことから向上余地はない。 今後、スマート農業を一層推進し、産地育成強化を図るため、自動開閉装置やアシストスーツなどの導入意向の把握に努め支援を検討する余地はある。
	⑤類似事業との統廃合・連携の可能性 ・類似事業はないか、統合や連携はできないか？	☐ 類似事業と統合・連携ができる(類似の事務事業名：) ☐ 類似事業と統合・連携できない(類似の事務事業名：) ☒ 類似事業はない (評価理由)
効率性評価	⑥事業費の削減余地 ・成果を下げずに実施主体の見直しによりコスト削減をできないか？ ・実施方法の適正化によりコスト削減をできないか？	☒ 削減余地がない ☐ 削減余地がある (評価理由) いちご産地維持及び産地の育成強化のため、引き続き支援する必要があることから、事業費の削減余地はない。

3. 改革・改善方向の部

(1) 改革の方向性(改革案・実行計画) ☐ 廃止 ☐ 見直し(☐ : 目的妥当性 ☐ : 有効性 ☐ : 効率性) ☐ 統合 ☒ 継続	(3) 改革・改善による期待成果 <table><tr><td></td><td></td><th colspan="3">コスト</th></tr><tr><td></td><td></td><th>削減</th><th>維持</th><th>増加</th></tr><tr><th rowspan="3">成果</th><th>向上</th><td></td><td>○</td><td></td></tr><tr><th>維持</th><td></td><td></td><td></td></tr><tr><th>低下</th><td></td><td></td><td></td></tr></table>			コスト					削減	維持	増加	成果	向上		○		維持				低下			
			コスト																					
		削減	維持	増加																				
成果	向上		○																					
	維持																							
	低下																							
(2) 課題、課題の克服の方向性																								

4. 事務事業の2次評価結果(事業の総括と事業の方向性)

(1) 1次評価結果の客観性と出来具合 ☐ 記述説明不足(説明責任不充分) ☐ 評価内容が客観性を欠く ☒ 評価内容は客観的と言える		(5) 改革・改善による期待成果 <table><tr><td></td><td></td><th colspan="3">コスト</th></tr><tr><td></td><td></td><th>削減</th><th>維持</th><th>増加</th></tr><tr><th rowspan="3">成果</th><th>向上</th><td></td><td>○</td><td></td></tr><tr><th>維持</th><td></td><td></td><td></td></tr><tr><th>低下</th><td></td><td></td><td></td></tr></table>			コスト					削減	維持	増加	成果	向上		○		維持				低下			
			コスト																						
			削減	維持	増加																				
成果	向上		○																						
	維持																								
	低下																								
(2) 2次評価者としての評価結果 ①目的妥当性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり ②有効性 ☐ 適切 ☒ 見直し余地あり ③効率性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり																									
(3) 2次評価者として判断した今後の事業の方向性 ☐ 廃止 ☐ 休止 ☐ 目的絞込み ☐ 目的拡充 ☐ 事業統廃合 ☒ 事業のやり方改善 ☐ 予算削減 ☐ 予算増大 ☐ 現状維持(従来通りで特に改革改善をしない)	(4) その他2次評価会議で指摘された事項																								